

「アポロ、主イエスの福音を教えられる」

2016年08月02日

使徒言行録 18 章 24 節～28 節。さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。それから、アポロがアカイア州に渡ることを望んでいたの、兄弟たちはアポロを励まし、かの地の弟子たちに彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。アポロはそこへ着くと、既に恵みによって信じていた人々を大いに助けた。彼が聖書に基づいて、メシアはイエスであると公然と立証し、激しい語調でユダヤ人たちを説き伏せたからである。

エジプトの学術都市アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、アポロという人がいた。彼は聖書に詳しく、雄弁家の学者であった。アポロがエフェソに来て、会堂で大胆に語った。彼はイエスについて熱心に語り、正確に教えていたが、洗礼者ヨハネのことしか知らなかった。洗礼者ヨハネに心酔し、ヨハネの洗礼について教えたのである。ヨハネが領主ヘロデに殺されてから、20年以上経っている。ヨハネが殺されたペレアからアレクサンドリアまでは500km以上ある。しかし、ヨハネの名声はエジプトにも届き、アポロはヨハネに傾倒し、ヨハネの洗礼について情熱的に語ったのである。

この雄弁な講演をプリスキラとアキラ夫婦が聞いていた。夫婦は、アポロが主イエスの福音が分かっていないことを知った。そこで、夫婦は彼を自宅に招き、主イエスの福音について正確に説明した。アポロはプリスキラとアキラ夫婦に主イエスの福音を教えられた訳である。

この出来事は非常に興味深い。夫アキラはテント造りの職人で、テント造りは蔑まれた職業とされていた。夫婦はローマに住んでいたが、クラウディウス皇帝からユダヤ人退去命令を受けて、コリントに来た。そして、パウロに同行してエフェソに来た。住居が定まらない、言わば「流れ者夫婦」である。「プリスキラとアキラ」と妻の名前を先に書いているから、妻は影響力のある知的な女性であったのかも知れない。しかし、ただの庶民夫婦であったに違いない。その夫婦が、アポロの講演を聞いて、主イエスの福音を正確に理解していないのを知り、大学者のアポロに教えたというから、驚きである。夫婦は主イエスの福音をしっかりと捉えていたのである。そして、夫婦の教えを聞いて、納得したというから、アポロも謙虚な人として、称賛に値する。教会は身分や学歴を超えて、話し合える開かれた関係にあったことが記され、嬉しい限りである。

主イエスの福音を正確に知ったアポロはアカイア州に渡ることを望んだ。アカイア州はコリントのある州である。エフェソ教会は、アポロの望みを叶え、彼を励まし、コリント教会が彼を歓迎してくれるようにと手紙を認めた。教会は互いを認め、励ます関係ができていたのである。

アポロはコリントに来た。彼は、クリスチャンたちを大いに力づけた。そして、プリスキラとアキラ夫婦に教えられたように、聖書に基づき、メシア（キリスト）はイエスであると公然と立証し、激しい語調でユダヤ人たちを説き伏せた。彼は雄弁さをもって、福音宣教に邁進したのである。